



時事評論家 増田俊男

## プーチンのウクライナ侵攻は真珠湾攻撃

プーチンが 20 万のロシア軍をウクライナの国境に集結させたのはウクライナの NATO 加盟を阻止する為の圧力であった。

プーチンが始めたウクライナ侵攻はロシア軍、FSB(元 KGB 諜報機関)、そして議会(国民)も全く知らないことであった。

プーチンも又ウクライナ侵攻は考えていなかった。

ところがアメリカ(CIA)は、戦後ウクライナへナチス残党を移動して作り上げた民兵にロシア軍の結集が終わったのを確かめると同時にロシア系住民が密集しているドネツクやルハンスク州の住民の無差別殺戮、道路に地雷、学校爆破などジェノサイド(大量殺戮)を指示した。

プーチンにロシア人の大量殺戮を見せつける為である。

プーチンの性格上、必ずロシア人救済の為に軍事侵攻するとアメリカ(CIA)は読んでいたのである。

だからこそ CIA が 2 月 19 日のバイデンの演説中、「数日中にプーチンはウクライナ侵攻に走る」と小耳にささやいたのである。

プーチンのウクライナ軍事侵攻はアメリカ(CIA)による誘導であり、プーチンはまんまと乗せられたのである。

かつて日本はアメリカの巧みな誘導で真珠湾攻撃し、結果日本は今日までアメリカの傀儡政権を続けている。

プーチンはウクライナ侵攻後、直ちにキーウ占領を予定していたが、ロシア軍の行動はすべてアメリカの監視衛星で知られているので、ロシア軍は敗退を続けている。

一時ロシア軍侵攻当初の一時優勢な時は、国民は拍手喝采であったが、今日のように住民投票でロシア編入を決めていたドネツクやルハンスク州までウクライナ軍に解放され、ロシア兵士の戦死者数が増え続け、今日のように戦況が不利になってくると、当初から計画に無かったのにプーチンが勝手に始めたことになり、ウクライナ侵攻にロシア軍、FSB(KGB に代わる諜報機関)、さらに議会まで戦闘を停止し、平和交渉を求めるようになった。

プーチン退陣を求める決議をした地方議会もある。

さらにプーチンが最も恐れるアレクセイ・ナワリヌイ(反体制運動家)が獄中から反戦運動を国民に指示、プーチンの汚職調査を議会に求めるなどで独裁者プーチンは追い詰められている。

それを知ってウクライナのゼレンスキー大統領は一切停戦交渉には応じない。

プーチンを支えてきたオリガルヒ(振興財閥)もプーチンのウクライナ侵攻以来、自家用機やクルーズに出来る限りの金塊やドル資産を国際刑事機構(インターポール)に加盟していない(差し押さえされない)外国へ持ち出している。

プーチンの右腕、左腕のオリガルヒも反戦の意志表示をしているが暗殺されない。

FSB がプーチンの指示通りにならなくなっているからである。

オリガルヒというカネ蔓(ズル)が無くなり、軍と諜報機関を掌握出来なくなったプーチンのご臨終は近い。

エリツィン(プーチン前の大統領)と一蓮托生であった 7 人のオリガルヒ(ユダヤ資本)はプーチンを支えてきたが、プーチンは不動の独裁者になると自らの汚職の証拠隠滅の為すべて暗殺、投獄、自殺に見せかけた殺人等で抹殺した。

今度はユダヤ資本に恩を仇で返したプーチンが抹殺される番である。

詳しくは「インターネット国際政経塾」(増田塾)で、

こうした真実を儲けに変えるのが増田塾の役目です。

これからがいよいよ本番です。